

山のトイレを考える会 ニュースレター

NO.10 2010.1.19

ごあいさつ

代表：岩村和彦

新年を迎え会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。昨年の北海道はトムラウシ山での大量遭難死という悲しい事故もまだ記憶に新しいところで、同じ登山愛好者の一人として心に期すところがあるものです。

さて皆様にはこの一年並々ならぬご支援、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。ニュースレターを差し上げることで会の活動状況を把握していただき、疑問やご提案など忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

来る3月6日には第11回目のトイレフォーラムを開催する予定です。多くの皆様のご参集とご発言を心よりお待ちしております。

活動報告

1. 第10回フォーラムの開催(2009.3.7)

第10回山のトイレフォーラムが札幌市エルプラザで開催され、51名の参加者を迎えて行われました。

テーマは「美瑛富士避難小屋に似合うトイレ再考」です。

最初に講演があり、北海道大学教授の船水尚行氏から「最先端技術としてのドライトイレ」と題してお話いただきました。

船水氏は、安全な水が飲めず衛生状態が悪いために病気や死亡率の高いアジアやアフリカの発展途上国に、高価な下水道設備によらない新しいサニテーションシステムを提案、また低コストのバイオトイレの普及に尽力されています。

途上国での住居近くを流れる汚染された川の写真は心が痛みました。船水先生の先進的な取組みは北海道の山岳トイレの改善に繋がる貴重なお話でした。

その後のディスカッションでは、美瑛富士避難小屋にトイレを設置するとした場合に最適なトイレは何か、当会(案)を基に話あいました。講演者のアドバイスや参加者からの思いもよらぬ貴重な意見が多数出ました。当会(案)をさらにリファインし、いざ導入となった場合の一つのトイレ案としてテーブルに載せていただきたいと願っています。

ディスカッションの内容は当会ホームページに掲載していますのでご覧ください。

2. マナーガイドをリニューアル(2009.8.1)

初版は2004年から5年、約1万部以上登山者に配布しました。今回はトイレ紙の持ち帰りに重点を置いた内容にリニューアルしました。初版同様、デザイン編集を菅原靖彦氏にお願いし作成いたしました。

配布にご協力いただける方は事務局までご連絡ください。事務局から送付いたします。



新マナーガイド



携帯トップページ

3. 携帯で山トイレ情報が見れます！(2009.12.1)

<http://yamatoilet.jp/i/yamatoilet.htm>

北海道の山のトイレ情報が携帯でも見れるようになりました。一度アクセスして、ブックマーク(お気に入り)に登録してください。所属山岳会や山仲間にもお知らせしていただければ幸いです。誤りがありましたら修正しますので仲俣までメールで一報をお願いします。

yoshio49@gray.plala.or.jp



第10回山トイレフォーラム模様(左は講師の船水先生)

4. 幌尻山荘の排泄物担ぎ下ろしに参加 (主催：日高山脈ファンクラブ) (2009.8.16) (2009.9.13)

日高山脈ファンクラブ(樋口和生会長)主催の幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに、当会の会員も参加しました。

幌尻山荘では、屋外にバイオトイレが1基、貯留式仮設トイレ2基、山荘内に貯留式1基が設置されています。

1回目は参加者12名で219kg、2回目は参加者33名で460kg担ぎ下ろしました。山荘内トイレ、仮設トイレ便槽、貯留タンクは全て空になったそうです。

バイオトイレは水力発電機の故障で暫らく利用できなかったのですが、修理後38日間利用できました。

2005年開始したこの事業の参加者は延べ190名、人力運搬総量は約3トンを超えるとの報告でした。



2009年第1回排泄物担ぎ下ろし

5. 2009山のトイレデー実施 (2009.9.6)

2009トイレデーは9月6日に実施しました。北海道の約30箇所の登山口でマナー袋と山のトイレマナーガイドの配布、ティッシュやゴミを拾う清掃登山を一齐に行いました。参加者は約100名、マナー袋、マナーガイドは約1,800枚を配布することができました。

今回も当会の活動目的の重要な柱の一つである「トイレ紙は持ち帰りましょう」を主活動とし、山のトイレTシャツを着て登山者に呼びかけました。

今回で9回目です。日本山岳会北海道支部、さらに道央地区勤労者山岳連盟の秋のクリーンハイクでも多くの山岳会が協力してくれました。多くの皆様に支えられてこそこの山のトイレデーです。今後も継続して実施していこうと思いますので、ご協力宜しくお願いします。



富良野岳登山口でのトイレデー

6. 山岳トイレ技術セミナーへ参加 (2009.12.11 仙台)

環境省主催の「H21年度山岳トイレ技術セミナー」が仙台で開催され、当会から愛甲事務局長(セミナー講師)、小枝、仲俣の三人が参加しました。

セミナーの目的は、適正なトイレ尿尿処理技術の普及を促進し、環境保全と環境産業の発展を促すことです。

環境省はH15年度から非放流式山岳トイレ尿尿処理技術について環境保全効果を第三者が客観的に実証して情報公開する事業を行っています。いろいろなバイオトイレ技術の申請のあったものについて、尿尿処理効果を試験しデータを公開する事業です。

今まで15技術について実証試験を実施したのですが、管理人のいる山小屋ばかりでした。ただ、この中には避難小屋に実際に運用している技術もあり、北海道の避難小屋トイレ更改時の参考になると思います。

導入事例では、神奈川県から丹沢大山地域に導入された8箇所の土壌処理方式のバイオトイレの維持管理について、また、岩手県からは早池峰山の取組み報告がありました。岩手県では10箇所の避難小屋にバイオトイレ(全て土壌処理方式)が導入されていました。

県によって山のトイレに対する取り組み姿勢に相当差があることを痛感したセミナーでした。

7. 美瑛町と上川中部森林管理署に訪問 (2009.6.4)

美瑛町を訪問(愛甲・仲俣)し、美瑛富士避難小屋のトイレ問題について意見交換を実施。その後、上川中部森林管理署を訪問し、美瑛富士白金温泉登山口の入林届を登山者数が把握できる様式に変更していただくよう要請、快く了解していただきました。